



行者仕込みのおもてなしが息づく 洞川温泉

洞川温泉（奈良県吉野郡天川村）は、修験道の根本道場であり、女人禁制で知られる大峯山（山上ヶ岳：標高1,719m）の麓に位置する。標高820m余りの高地で、夏は涼しく関西の軽井沢とも呼ばれる。旅館・民宿が20数軒、そのほかに土産物屋が連なるのどかな温泉街である。

同温泉街は行者の宿として、起源は奈良時代までさかのぼる。古くから全国各地に講と呼ばれる修験道の信仰グループがつくられ、大峯山を目指す行者の宿として慕われてきた。しかし、地域コミュニティーが稀薄になり若者の参加が少なくなったことや、先達と呼ばれる講のリーダーの高齢化などから、行者の宿泊は20年前の3分の1にまで減少した。

そこで、同温泉は、一般の宿泊客にも来てもらおうと洞川の魅力（自然、歴史、霊地、おもてなし）をネットを通じアピールしたことで、家族連れやグループ客に人気を呼んでいる。

〈洞川の魅力〉

- ◆自然：峻山名峯の連なる山岳、清らかな川、深い溪谷など美しい自然に恵まれ、名水百選に選ばれている水「ごろごろ水」がある。
- ◆歴史：約1300年前に役行者により大峯開山がなされて以来、山岳修験道の聖地大峯山の登山口として栄えた。大峯山頂には蔵王権現を祀る大峰山寺がある。平安時代には空海や西行のほか宇多天皇、菅原道真、藤原道長などの貴顕が熱心に大峯山へ参詣した。
- ◆霊地：大峯の山々は1300年間の歴史の中で原生の状態を保ち、その環境に身を置けば、人知を超えた存在を感じる事が出来る。
- ◆おもてなし：宿では夜中に到着したり、また未明に出発する行者のあらゆる求めに応じてきたことから、宿屋の人には懐の深さや、もてなしの心が培われてきた。宿泊客のあらゆる望みを受けとめる心配りが、宿泊客の感動を呼んでいる。

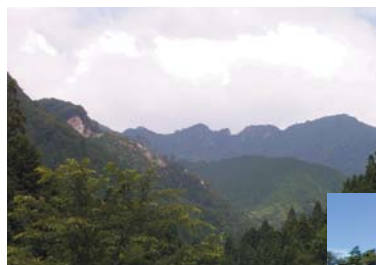
関西じゃらん 2008年6月号の温泉地グランプリ（対象エリア：静岡県以西、四国までの2府20県）によると1位奥飛騨温泉郷、2位城崎温泉、3位有馬温泉に次いで洞川温泉が4位に入った。この結果は、同温泉が、今まで種々努力をしてきたことが報われた証しである。

また、洞川温泉では行者や旅人のひと休みの場所として、昔から縁側を開放してきた。旅館11軒が縁側をカフェに変身させ、星降る里でもある天川村という名に由来した「天の川カフェ」を昨年オープンした。

訪ねた人が「何かホッとする」「懐かしい場所に来た」「時間がゆっくり流れているよう」と感じるのも、都会にはない洞川温泉の魅力といえる。

同温泉の売りであるおもてなしを發揮して、今後たくさんの宿泊客、観光客が訪れることを期待している。

（上田 祥博）



修験道の行場がある大峯山



大峯山頂にある大峰山寺本堂



レトロな街並みの洞川温泉街

（写真提供：天川村）